

J A M 政策NEWS

2008年9月19日 第2009-04号

【発行】J A M

【発行責任者】斉藤 常

【編集】政策政治グループ

03-3451-2425

E-MAIL : seisaku.seiji@jam-union.jp

「事故米」問題 次官発言を撤回して謝罪せよ！ つつい信隆議員（JAM準組織内）が農水省の責任・姿勢を追及

衆議院農林水産委員会の閉会中審査が9月18日に開かれ、JAM準組織内のつつい信隆議員（民主党ネクスト農水大臣）が、事故米・汚染米の不正転売問題で、食の安全を軽視している農林水産省の姿勢と責任について厳しく追及しました。

<衆議院農林水産委員会での主な質疑>

【つつい議員】事故米、汚染米を流通させ、食用への流用を内部告発があった以降も見逃してきた張本人は農水省。容易に食用に転換できるような体制を作ったのも農水省。事務次官が「一義的には三笠フーズ等々に責任がある。農水省には責任があるとは考えていない」という発言をしたが、今度の問題を起こした一義的な責任は農水省にある、こう言うべきではないですか。

【太田大臣】食の安全について農水省は当然責任があるわけで、責任が無いということは絶対に言えない。この点については、次官に対して私のほうから注意しいたしておるところです。

【つつい議員】次官の発言は、ご本人が撤回したのですか。次官自身が謝罪をして、正式に撤回すべきではないか。

【太田大臣】時間の任命権者の私が次官を呼んで注意した。また、特にこれについて官房長官から注意をしているので、内閣としてこのことをきちんと認めているということだと思います。

【つつい議員】次官という農水省の事務の最高責任者が、責任がないと考えていたわけですよ。大臣とか官房長官が注意しただけで済ませるのがおかしい。本人が間違いであったと明確に認め、謝罪されることが必要ではないか。

【太田大臣】私のほうからあるいは官房長官から注意したということです。ちょっとそれ以上のことは今お答えできかねます。

【つつい議員】農水省の事務方の姿勢の問題だ。こういうことが今回のような問題を起こしてい

るんです。はっきり反省をして謝罪、撤回する。たとえば大臣や官房長官から注意したところで、本人は納得していないかもしれない。

【太田大臣】質問があった以上、次の機会に、記者会見の場で事務次官自身からそれを言うのが適当かなというふうに考えております。

【つつい議員】カドミウム米の場合には、熱処理、粉碎をし、着色をした上で食用への転用を防止したが、今度の場合は何で着色行為をして食用への防止を図らなかったのか。

【太田大臣】カドミウム米と同じように処理すべきでありました。着色をし、同じ扱いにすべきだったと思います。

参院厚労委も閉会中審査

厚生年金改ざんの疑い69,000件

9月18日には参議院でも民主党の強い要望によって、厚生年金の標準報酬月額改ざん問題についての厚生労働委員会の閉会中審査を開催。津田やたろう議員も出席する中で、民主党の各議員が社会保険庁による改ざんへの組織的関与や指導の有無などを追及しました。

質疑の中で、舛添厚労相が、改ざんが疑われるコンピューター上の記録が69,000件あることを明らかにし、改ざんへの社会保険庁の組織的関与についても「あったであろうと思っている」「限りなくクロに近いと思っている」などと答弁しました。